野菜花き９月下旬巡回調査結果の概要について

【東北信】　巡回日　９月 25 日、28 日

１　トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、輪紋病の発生のほか、ウイルス症状を呈したCMV感染株がわずかにみられた（図１）。オオタバコガの産卵は６月下旬以降、継続的に確認され、幼虫による被害果実が今回調査でもみられた。以前の調査で多発していたアザミウマ類、ハダニ類の寄生はみられなかった。、

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病が前回調査よりも進展し、多発していたほか、葉かび病の発生がみられた（図２）。虫害では、前回調査に続き、ハモグリバエ類の寄生が多く、オンシツコナジラミの寄生は少なかった。



図１　トマトのウイルス症状株（小諸市）



図２　トマトの葉かび病　発病葉の表面と裏面（長野市）

２　きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発生が多かったほか、べと病、褐斑病の発生もみられ、同一の葉に混発していた（図３）。虫害では、前回調査に続き、ハモグリバエ類の被害葉がわずかにみられた。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、褐斑病、べと病の発生がみられ、前回の調査よりも病勢は進展し、発病株率は高くなった。虫害の寄生はみられなかった。



図３　きゅうりのうどんこ病とべと病の混発（長野市）

３　いちご

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生花率は前回調査よりも低くなった。病害の発生はみられなかった。

４　キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、株腐病の発生が少程度でみられたほか、虫害ではチョウ目害虫の食害が散見された。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、外葉で黒腐病（図４）、黒斑病の発生が少程度でみられたほか、虫害ではチョウ目害虫の食害が散見された。

軽井沢町の巡回ほ場は、収穫期であった。虫害ではウワバ類を主としたチョウ目害虫の被害株が多かった。

病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、外葉で黒斑細菌病、黒腐病の発生が少程度でみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害株がやや多かった。



図４　キャベツの黒腐病（南牧村）

5　ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、花蕾形成期であった。病害では、黒腐病、黒すす病の発生が少程度でみられた。虫害では、チョウ目害虫の食害株がわずかにみられた。

御代田町の巡回ほ場は、花蕾形成期であった。虫害ではチョウ目害虫の食害株が少程度でみられた。病害の発生はみられなかった。

6　はくさい

上田市の巡回ほ場は、結球始期であった。虫害では、チョウ目害虫の食害が散見された。病害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。病害ではピシウム腐敗病（図５）、黒腐病の発生がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の食害が散見された。

小海町の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、外葉にべと病が少程度で発生し（図６）、ウイルス症状株がわずかにみられた（図７）。虫害では、チョウ目害虫の食害が散見された。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。病害では外葉に黒斑病、べと病が少程度で発生し、ウイルス症状株がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の食害が散見された。



図５　はくさいのピシウム腐敗病（小諸市）



図６　はくさいのべと病（小海町）



図７　はくさいのウイルス症状株（小海町）

7　レタス

上田市、小諸市、南牧村、御代田町の巡回ほ場は、いずれも結球期であった。いずれのほ場においても、すそ枯病の発生がみられ、外葉を中心に病勢が進展して多発していたほか、上田市のほ場では、べと病、斑点細菌病との混発がみられた。虫害の発生はみられなかった。

8　アスパラガス

小諸市および飯山市（露地栽培）、小布施町（雨よけ栽培）の巡回ほ場は、いずれも立茎繁茂期であった。病害では、いずれのほ場でも茎枯病の病勢が進展し、発病株率は前回調査よりも高くなった。また、飯山市と小布施町のほ場では斑点病、褐斑病（図８）の発生がみられた。虫害では、オオタバコガ（図９）の寄生が飯山市と小布施町のほ場でみられ、小諸市のほ場では、前回調査に続きヨモギエダシャクの寄生がみられた。いずれのほ場でもアザミウマ類の寄生がみられたが、寄生株率は前回調査よりも低かった。



図８　アスパラガスの褐斑病（小布施町）



図９　アスパラガスのオオタバコガ（飯山市）

9　ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。虫害では、ナガイモコガの寄生がみられ、食害痕が目立った（図 10）。病害の発生はみられなかった。



図 10　ながいもに寄生するナガイモコガと食害痕（長野市）

【中南信】　巡回日　9月24日、25日、28日、30日

1　トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

2　きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は収穫中であった。花にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、依然として葉にタバココナジラミ成虫および幼虫（中発生）の寄生がみられた。

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。前回に引き続き、花および葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、病害では、葉にうどんこ病およびべと病（いずれも少発生）の発生がみられた（図11）。

3　キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、結球始期であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった。結球部の一部にオオタバコガの寄生および食害がみられた。

茅野市の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。



図11　きゅうりべと病（松本市）

4　はくさい

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。一部に軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。

木祖村の巡回ほ場は、生育期（７～８葉期、収穫終了によりほ場変更）であった。病害虫の発生はみられなかった。

5　レタス

塩尻市の巡回ほ場は、生育期（５～６葉期、収穫終了によりほ場変更）であった。外葉にすそ枯病（中発生）の発生がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、生育期（６～７葉期）であった。外葉に斑点細菌病（少～中発生）の発生がみられた（図12）。



図12　レタス斑点細菌病（朝日村）

6　セルリー

松本市の巡回ほ場（施設栽培）は、生育後期～収穫前であった。病害虫の発生はみられなかった。

7　アスパラガス

豊丘村の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉にアザミウマ類およびアブラムシ類（いずれも中発生）の寄生がみられたほか、擬葉および若茎のハダニ類は依然として多発生であった。病害では、茎枯病（少～中発生）の発生がみられ、前回と比較して微増傾向であった。

飯島町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は茎葉繁茂期であった。前回同様、擬葉にアザミウマ類（少発生）がみられたほか、ハダニ類（少発生）も薬剤散布により大幅に減少したものの、わずかに生き残りがみられた。病害では、茎枯病（中発生）が続けて発生しており、発病株率は同程度であったものの、症状は悪化していた。

松川村の巡回ほ場（露地栽培）は、茎葉繁茂期であった。擬葉にアザミウマ類（多発生）の寄生がみられ、依然として高密度の状態が続いていた。

8　ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉6.0～7.0葉であった（収穫終了によりほ場変更）。葉に黒斑病（多発生）の発生がみられたものの、症状は前回より落ち着いていた。虫害については、葉にアザミウマ類およびネギハモグリバエ幼虫（多発生、少発生）の寄生がみられたほか、ヨトウ類（少発生）による食害もわずかにみられた。

山形村の巡回ほ場は、本葉8.5～9.0葉であった。前回同様、葉にアザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ幼虫（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（多発生）が前回よりも進展していた。

9　ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。病害虫の発生はみられなかった。

10　きく

富士見町の巡回ほ場は、出荷前（草丈約106cm）であった。病害虫の発生はみられなかった。